

### 3 社会関係

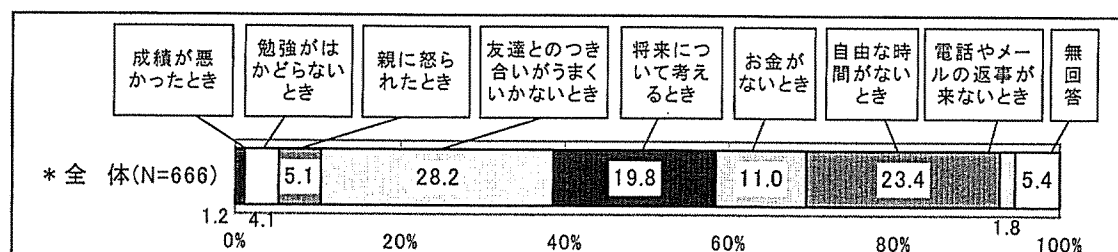
#### (1) 友人の重要性

多くの大学生にとって学生生活の場は、一方でそれまで育ってきた家族とのつながりを保ちながら、他方ではそこから経済的・心理的に離脱して新しい人間関係をとり結ぼうとする過渡的な状態にあるとあってよい。アイデンティティの軸足を親きょうだいの家族から、同世代の友人に移しながら、職場や地域などの社会に参入してゆく準備期ともいえよう。そして、青年期特有の不安やストレスに悩む時期でもある。

今回の調査で彼（女）らが最もストレスを感じる時をたずねたところ、「友達とのつき合いがうまくいかないとき」がトップで、次いで「自由な時間がないとき」「将来について考えるとき」であった。大学生にとっての友人関係の重要性をうかがわせる回答である。

このことは、悩みを相談する相手の選択においても極めて顕著に示されている。「同性の友だち」をあげたものが過半数にのぼり、「異性の友だち」を含めると6割に達する。家族は親きょうだいすべてを含めても2割に満たない。友人・家族への依存度は男性に比べて女性の方にやや強いようで、そのぶん男性は「誰にも相談していない」という自立志向がみられる。

(図表 23) 最もストレスを感じる時



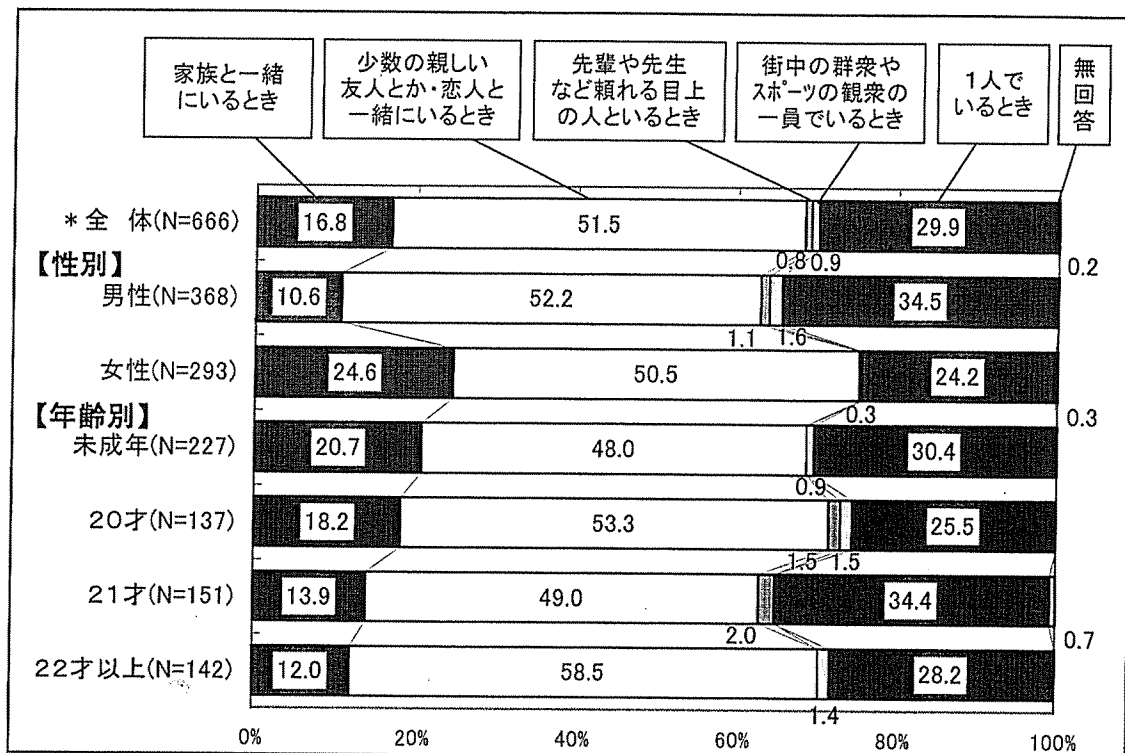
友人の重要性を更に示しているのが、彼（女）らにとって一番心の安まる場をたずねた質問に対する回答で、「少数の親しい友人・恋人と一緒にいるとき」をあげたのが過半数であった。ここでも「家族と一緒にいるとき」は2割に満たない。むしろ「1人でいるとき」をあげたものが3割で「家族と一緒に」を凌駕している。

そしてこの場合にも、「1人でいるとき」を選んだ者の割合は男性の方が高い。

なお、悩みの相談相手の場合にも、また、一番心の安まる場に関しても、「家

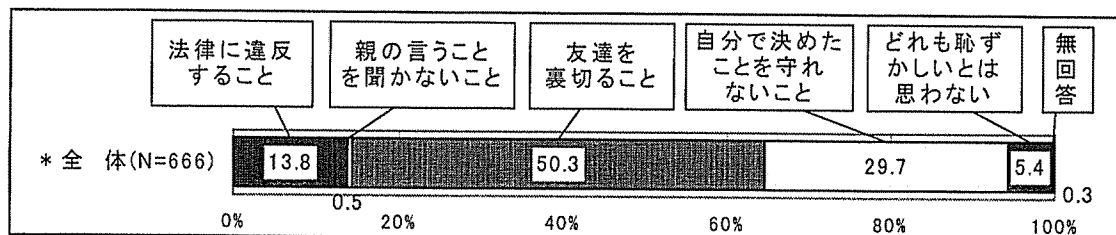
族」をあげた者の比率が年齢とともにリニアに減少している。大学生活の間に家族からの離脱が確実に進んでいくことをうかがわせる数字である。

(図表 24) 一番心が休まる場所



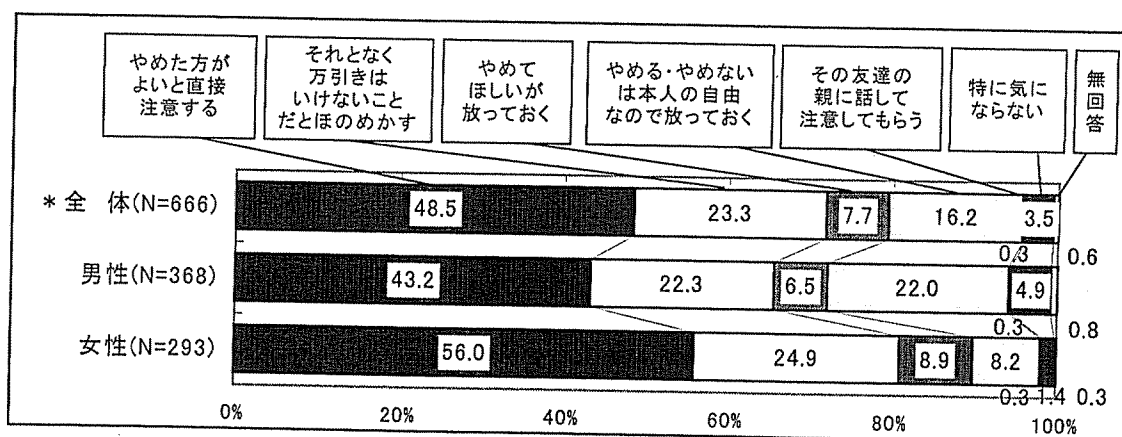
家族からの離脱と友人の重視を別の側面から示しているのが、“最も恥かしい行為”と“友人の万引きを知ったときの対応”をたずねた質問に対する回答である。前者の質問に対しては半数の者が「友達を裏切ること」をあげ、「親の言うことを聞かない」と答えた者はほとんど無かった。むしろ「自分で決めたことを守れない」ことを恥じる自律性を表明した者が3割いたことが注目される。

(図表 25) 最も恥ずかしいと思う行為



友達の万引き行為に対しては、やめるように「直接注意する」と答えた者が半数に近く、「それとなく、いけないことだとほのめかす」という回答が2割強で、両者を合わせて7割を超える者が本人に忠告する姿勢をもっている。この場合にも「友達の親に注意してもらおう」と答えた者は皆無に近い。なお、本人に忠告する姿勢は男性に比べて女性の方にやや強く、「本人の自由だから放っておく」という突き放した態度を示す者の比率は男性の方に多かった。

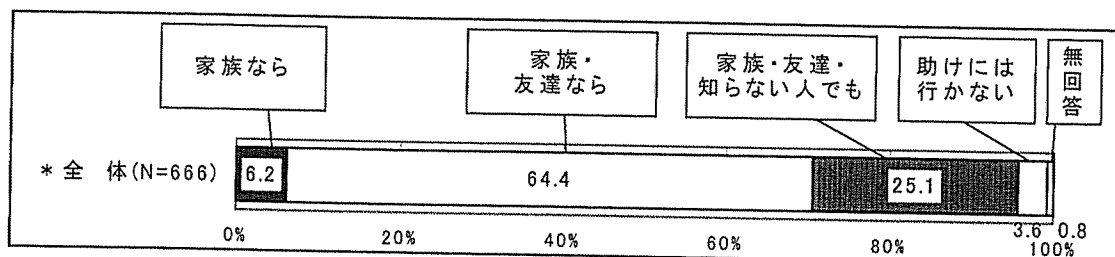
(図表 26) 友達の万引き行為の認知後の対応



もう1つ友人の重要性を示す例として、身を挺してでも危難を救ってあげたい相手として「家族」だけをあげた者(6.2%)よりも、「家族・友達なら」と回答した者が圧倒的に多い(64.4%)、という結果がある。

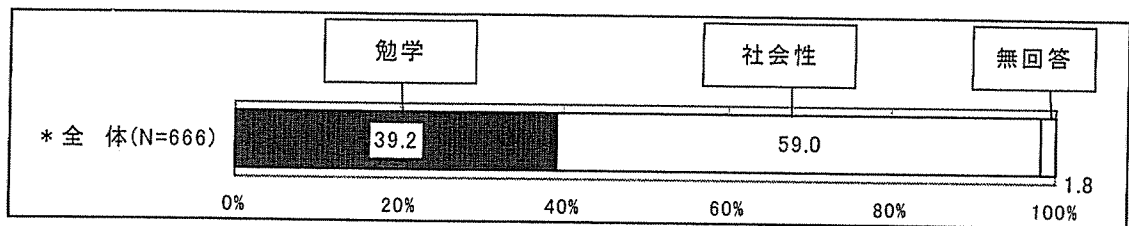
なお、「知らない人」までも含めて救出の意志を表明した者が4人に1人(男性だけでは3人に1人)いたことは、青年らしい客気を示すものといえる。

(図表 27) 脅迫されている場面で、危険でありながら救出したいと思う相手



最後に、大学生活の意義についてたずねた質問に対しては、「勉学」をあげた者よりも「社会性の修得」をあげた者の方が4対6の割合で多かったことを指摘しておきたい。これまで分析してきた回答を通じて、勉強、成績、教師といったアイテムに対して、ほとんど軽視あるいは無視の態度が示されてきたことと考え合わせると、現在の大学が勉学の場であるよりも、友を求め、友人との良好な人間関係を維持することに腐心する場であることを痛感させられる。

(図表 28) 大学生活の意義に近いもの



ただ、彼(女)らが求める友人の範囲は、必ずしも広く開かれたものではない。一緒に活動し親しく交歓し合える「沢山の友人・知人」を持つことよりも、「少数でも気心の知れた親しい友人」と共に楽しむことを好む者の方が圧倒的に多い。

(図表 29) 好ましい友人関係

